

「第 6 回抗菌薬適正使用に関するセミナー」主旨

【活動目的】

学会会員を対象とした抗菌薬適正使用支援チーム（antimicrobial stewardship team：AST）に関する教育

【活動主旨】

2020 年より継続している本セミナーは、抗菌薬適正使用支援に関する基礎知識と臨床現場で AST メンバーとして、これらを実践するために必要な共通の知識を習得することを目的に開催してきました。今回第 6 回を迎えるにあたり、2024 年度に改訂された「抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイドダンス（8 学会合同）」や「抗微生物薬適正使用の手引き（第 3 版）」の内容を踏まえ、より実践的かつ施設規模を問わず活用可能な内容にアップデートを重ねております。

COVID-19 パンデミック以降、わが国では抗微生物薬の使用状況に変化が生じており、2023 年に再策定された AMR 対策アクションプラン（2023-2027）では「2027 年までに抗菌薬全体を 15%減」「カルバペネム系注射薬を 20%減」など、具体的な数値目標が設定されています。一方で 2024 年度診療報酬改定では Access 抗菌薬の使用などに関して、AST 活動の評価指標もより実効性あるものへと進化しました。

2023 年の統計「全国抗菌薬販売量 2023 年調査データ」によれば、2023 年の抗菌薬使用量は前年よりも増加が報告されており、2020 年と比較しても増加が見られます。また、日本の抗菌薬使用量は OECD 諸国中で高水準とされ、特に外来領域での第 3 世代セファロsporin 系薬やマクロライド系薬の使用が課題とされています。こうした状況に対応すべく、改訂ガイドダンスでは「外来」「中小規模施設」における AS の具体的方策や、経口薬の最適治療について加筆されました。

AST 活動はチームの連携が肝要であることは言うまでもなく、今後は個々の職種に求められる専門性に加え、AST 活動のアウトカムを共通の認識で評価し、各職種がそれぞれの立場で改善へ取り組む PDCA サイクルも重要となっています。本セミナーでは、これからの時代の AS を支えるために必要な基礎知識を、事例や最新のガイドラインの解釈も交えてお伝えします。これから AST の一員として関わる方々だけでなく、現場で必要な知識を改めて確認したい方々にとっても、有益な学びの場となることを目指しています。

本セミナーは毎年多くの参加者を維持して、第 5 回は 129 名の参加を頂きました。参加者からの意見を基に、内容を更に充実して第 6 回セミナーを開催いたします。本コースのセミナーは感染対策向上加算の算定有無に関わらず、これから AST 活動を始める施設、ICT が AST 活動を兼ねる施設、AST を構成する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等のメンバーを対象に昨年と同じ構成で実施します。

今年も Web と現地での開催を企画いたしましたので、ご施設のメンバーもお誘いあわせの上、ご参加いただくようお願い申し上げます。

「第6回抗菌薬適正使用に関するセミナー」スケジュール

- 10：00～10：10 総論
担当：森兼 啓太（山形大学医学部附属病院）
ASTに関する考え方、構成職種とそれぞれの役割などに関して、本コースの導入となる総論的内容を述べる
- 10：10～11：00 抗菌薬の薬理、体内動態、副作用
担当：西 圭史（日本大学薬学部）
各系統の抗菌薬の特徴を薬理や体内動態を交えながら、基礎的で重要なポイントに絞り難しくならないように述べる
- 11：00～11：10 休憩
- 11：10～12：00 微生物検査
担当：佐藤 智明（山王病院）
微生物検査室がない施設においても、抗菌薬適正使用に微生物検査を活用するため、微生物検査の流れと検査結果の読み方（解釈）について述べる
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～13：50 感染症診療の基礎
担当：細川 直登（亀田総合病院）
主訴や現病歴、身体所見から感染症のフォーカスや起原病原体の推定に至る、一連の感染症診療の流れを述べる
- 13：50～14：40 抗菌薬の選択
担当：池谷 修（慶應義塾大学病院）
抗菌薬のスペクトラム、薬剤耐性菌と抗菌薬、細菌検査結果に基づく抗菌薬の選択、感染臓器と抗菌薬などASTに必要な抗菌薬の選択について解説する
- 14：40～15：00 休憩
- 15：00～15：50 感染症に必要な統計、疫学
担当：丹羽 隆（岐阜大学医学部附属病院）
プロセス指標、アウトカム指標につながる抗菌薬の集計法とこれらをいかに評価するかについて述べる
- 15：50～16：40 ASTにおける看護師の役割
担当：四宮 聡（箕面市立病院）
看護師が、抗菌薬適正使用とどのように関係し、ASTの一員として活動しうるのかについて述べる。また、AST専従者の実際の活動内容についても触れる。
- 16：40～17：20 総合討論
担当 小野 和代（東京科学大学病院）ほか